

## 干場信司 北海道大学楡庭会会長追悼文

令和4年5月22日に逝去された干場信司さんの追悼文を有志に募ったところ多くの方からの追悼文が寄せられましたのでご紹介させていただきます。

なお掲載順は 卒業年度・あいうえお順にさせていただきました。

干場信司君を偲ぶ	.....	中嶋 博
干場会長の急逝を悼む	.....	能勢 敏壽
善き人-干場信司 北海道大学楡庭会会長-	.....	安川 淳一
干場信司さんを悼む	.....	林 英俊
「楡庭会におけるHPの位置づけ」	.....	勇崎 一敏
干場さんの思い出	.....	安達 隆
友人干場信司君	.....	上田 一郎
干場信司さんを悼む	.....	勝世 敬一
干場と私と庭球部	.....	大堀 隆文
干場氏、同期の佐々木です	.....	佐々木 幾郎
干場君の思い出	.....	竹下 章
干場さんのこと	.....	野口 伸一
干場とぼくとテニス (昭和47年5月発刊 部誌 TENNIS '73より)	.....	松原 雄二
干場さんを偲んで	.....	川浪 雅光
「干場さんの思い出」	.....	桑田 雄平
「誠実な人柄、人格者だった干場さん」	.....	成田 吉弘
干場会長を偲んで	.....	大野 賢一
干場さんの思い出	.....	川西 龍一
干場さんのこと	.....	栗田 正樹
干場全国楡庭会会長を送る	.....	大浦 裕
干場先輩を偲んで	.....	田中 裕子
干場会長を偲んで	.....	太田 正人
干場会長追悼文	.....	佐々木 孝幸
干場会長を偲んで	.....	矢内 穂高

## 干場信司君を偲ぶ

北大庭球部 元部長  
昭和38年度 主将  
昭和40年 農学部卒 中嶋 博

干場君の追悼文を書くことになるとは思っていませんでした。亡くなる前日の昼に電話で、「俺よりも先にいくなよ」と伝えたのに、先に逝ってしまいました。当日テニス部の新入部員との懇親テニスに出かけていました。干場君がきていなかったの、昼にコートサイドから携帯で電話をしました。入院中で6月初旬に退院し、再入院するようなことを言っていました。

干場君との出会いは昭和44年に入部してきた時からです。札幌北高出身でした。この年は大学紛争が激しく、東大入試がなかった年です。大学の建物は、過激派に占拠されているものが多く、講義も満足にされないで休講続きのため、テニスをしていたようです。コート近くの図書館は過激派に占拠されていて、このようなときにテニスを興じているとは何事かと野次られたことがあったようです。テニススタイルはサーブのスピードは遅く、その分ボレーは上手だった、ダブルスは干場・大堀という名コンビで粘り強かった。同期には人物が多く、だれが主将になるかと気にしていました。干場君が主将に選ばれました。東北大学戦は9-0で完勝しました。東北大学のテニス部は部内が紛争の影響でまとまっていなかったようです。学生時代のことは他に譲り、農学部卒業後と同時に道職員となり、新得の道立畜産試験場に採用され、清水良彦先輩(昭和39年農畜卒、2021年没)と親しくなったようです。その後北大農学部出身講座の助手として戻ってきました。当時農学部の助手をしていた小生と親しくなりました。農学部の教職員のテニス同好会では大活躍でした。

その間、干場君はミネソタ大学の修士課程に入りました。小生も同時期に南隣のアイオワ州におり、一緒にテニスをしました。修士課程終了後、北大に戻りしばらくして、農水省の試験場に移り、その後酪農学園大学にうつりました。酪農学園大学の学長として、名称の変更などの問題があったが、酪農という名に固執していました。干場君は協調性あります。北大農学部テニス同好会と帯広畜産大学の同好会との定期戦をはじめたり、4農業研究機関(北大農、道立農試、国立農試、酪農大)テニスの定期戦を企画しました。これらの定期

戦は関係者の高齢化により続いていません。帯畜戦は25年くらい、4研究機関は5年くらい続いたと思います。

研究は農業物理で、今では家畜の福祉で、家畜が快適な環境で生活できるように種々配慮する分野を含みます。カウハッチという、生まれたばかりの子牛が安全で健康に育てるための施設の研究を楽しそうに話しているのを思い出します。

楡庭会の会長は前任者の安川先輩（昭和42年卒）から受け継ぎ、新しいコートの維持管理の方策やテニス部の創部120年記念行事の立案企画などに尽くしてくれました。体調が思わしくなくなり、本人としては歯痒い思いをし、途中で降りることは残念に思っていると想像できます。ずっとペアを組んでいた大堀君が会長の跡を継ぎうまくやってくれると思います。干場・大堀ペアは卒業50年近く担っても成立しているものと思われ、うらやましい限りです。これまでの貢献、厚情ありがとうございました。ゆっくりお休みください。

## 干場会長の急逝を悼む

北海道楡庭会 名誉会長

昭和37年度 副将

昭和41年度 農学部農業工学科卒 能勢 敏壽

令和4年5月22日（日）、千歳でテニスをした帰りの車中のことです。突然、干場君が今朝急逝した、との悲報が入り、私はただただ驚愕するばかりでした。その3日程前に、干場君から「今回の抗がん剤治療は、いつもよりも副作用が軽いようだ。退院したら、また、リハビリテニスをお願いします」と連絡が入ったばかりなのです。私は「来週の中頃には、いつもの野幌総合運動公園で、2人でリハビリテニスができるな」と楽しみにしていた矢先の、非常に悲しい報せでした。振り返ってみれば、私と干場君が出会ったのは、今から50年以上も前のことです。その旧友を突然失って、啞然とする思いですが、私の気持ちを整理する意味でも、私が知る干場君のことを少し記してみたいと思います。

### 学生時代のご活躍

干場君は、学生時代に、東北大学との対校戦において、単複合わせて見事に4勝。また、個人戦においても単複合わせて幾多の優勝をされ、公私にわたり、目覚ましい活躍ぶりでした。特筆すべきは、昭和47年度の東北大学戦で、主将として、部員

を一丸にまとめ鍛え上げ、庭球部史上、昭和5年以来2度目となる「北海道大学9-0東北大学」という見事な完勝を達成。主将として、また選手として、大活躍をされていました。

### 卒業後の歩み

干場君は、農学部農業工学科（私と同学科）を卒業された後、新得畜産試験場、北大教官、ミネソタ大学留学、農林省試験場、酪農大学、と様々に異なった職域で研究と豊富な経験を積まれた方で、物事に当たっては、深い見識と豊かな経験を基に、良く熟慮され、常に、良識的な判断を下されました。酪農学園大学では学長を務められて活躍され、また、楡庭会の活動、現役の支援活動にも大いに尽力されておられました。

### 私と干場君との出会い

私が会計検査院に勤務して数年後、酷暑の東京に干場君が仲間部の部員と共に遠征し、我々OBと親睦試合をした時のことです。彼は、コート狭しとばかりに、走りに走り回った拳句、彼のシャツからは、汗がポタポタ滴り落ちる程の状況になりました。見かねた私が「着替えは？」と聞くと、返事は「忘れしました」。それで、私の一番お気に入りのシャツ（当時としては珍しいフレッドペリー製）を、どうぞ、と着替えに差し出しました。つい勢いで、「持って行っていいよ」と言ってしまいましたが、内心もちろん洗って返してくるだろう、と思っていた私は、本当に返ってこなかったことに密かにショックを受けました。そんな微妙な関係が最初の出会いでした（笑）。

続いては、彼が社会人になってからのこと。東京での農業工学科関係OBの懇親会が終わり、靴を履こうかと思ったら、私の靴がないのです。結局、犯人は「干場君」だと判明。「王様の椅子を狙う」との諺はあるが「王様の靴を狙う」とは初耳だ、と皆で大笑いしました。その時なんとなく、干場君とは永く縁が続きそうだ、との予感がしました。

### 札幌でのお付き合い

平成8年、私は約30年間勤めた会計検査院を退職し、札幌に戻って来ました。同じ年に、干場君も酪農学園大学教授として、札幌に戻って来たのです。丁度この時期、楡庭会では、「創部百周年記念事業」という大案件が持ち上がり、この事業の一環として、「創部百周年記念コート」を造成し、大学当局に寄贈することが起案されていました。私は、突然に幹事長に祭り上げられ、資金集めから始まり、大学当局、楡庭会、施工業者等との打合せや調整等、慣れぬ仕事の多くに四苦八苦しておりました。この時に、様々な分野を経験された干場君が、ご自身の豊富な

知見を活かした適切なアドバイスを沢山くださり、大いに助けられました。干場君には、感謝しても感謝しきれません。

時を経て、私が数年前に楡庭会長を辞するに際し、後任会長は干場君が最適任者である、として会長を引き受けて頂きました。彼は、楡庭会の発展と現役学生への支援に多大に貢献し、最近では、来る7月に予定されている北海道大学庭球部創部120周年記念式典に向けての企画・準備等を牽引されていました。しかし、道半ばにして、突然、病に倒れ、帰らぬ人となってしまったのです。さぞや、無念な思いであったことでしょう。今回、楡庭会は、大黒柱を突然失うという大きな痛手を受けましたが、残った会員が一致協力して、干場会長の遺志を継いで参りたいと思います。

私は、干場会長を亡くした悲しみに加え、仲の良い弟を亡くした時のような喪失感に襲われています。

干場君。遠くない内に、私も愛用のラケットを携えて、そちらの世界に参ります。その時には、ポーン、ポーンと楽しくテニスを楽しみましょう。どうかそれまでは、心安らかに待っていて下さい。

## 善き人 -干場信司 北海道大学楡庭会会長

北海道大学楡庭会 前会長

昭和41年度 主将

昭和42年 理学部卒 安川 淳一

干場君が亡くなられた後、能勢先輩から「善人」と云うメールを戴いた。

内容は云わずとも、神は善き人を好まれ早く召されるとの記述があり、私も全く同感であった。

我々世代の楡庭会懇親会の終わり頃に必ずや「誰が一番長生きするか」と云う話が出て、数年前から二人のN先輩の名前が全員一致して挙がるが、この度の干場君の逝去については誰一人として考えたことなど有ろう筈が無く、神の気紛れに召されるとは、思いもつかぬことであった。

2016年に百年記念コート改修計画を具体化した段階から、北大総長への資金的支援、学生支援課への陳情や施設部への協力依頼等々、何度も一緒に面会に行き、苦勞を分かちあった。

その間、酪農学園大学における不本意な出来事で、訴訟、裁判

など多忙を極め、精神的にも肉体的にもかなり消耗し、少なからずストレスも溜まりこの度の逝去の一因となったように思える。

漸く2018年5月にコート改修事業が完了し、私の後任として楡庭会会長を干場君に託した。

2020年7月同期の宮上君、岡君と3人で知床の旅から札幌に戻り、野幌のコートで能勢先輩、干場君と5人でテニスをし、能勢・宮上 vs 安川・干場の試合が最後の思い出である。



今年5月初め能勢先輩から「3月に入院した干場君がまだ退院しないので練習相手が居なくて困っている。」との電話があり、ひょっとしたらあまり具合が良くないのでは、と頭を過った。

昨年11月仙台で行われた東北大戦の応援参加のお礼メールや今年の年賀メールには7月の庭球部創部120周年記念行事について記載されており、そこには干場会長の並々ならぬ情熱と強い思いを感じた。

楡庭会役員の方々とともに亡くなる前日まで記念行事の打ち合わせをされていたと聞いたが、未だ信じられぬ思いである。すぐそこに迫った庭球部創部120周年記念行事を前に、突然神に召された干場君の想いは如何許りかと思うと、やり切れない気持ちである。

さぞや無念であったであろう。

かく云う私も今日食道癌の検査結果を聞き、今のところ何とか生き延びられるとのことであったが、N先輩とは違い、それほど遠くない時期に一緒にテニスが出来る時が来る筈である。今はただ、安らかに高所から庭球部創部120周年記念行事を見守って欲しいと切に願っている。

2022年6月27日

## 干場信司さんを悼む

関西楡庭会 前会長  
平成 45 年度 主将  
昭和 46 年 経済学部卒 林 英俊

## 「楡庭会におけるHPの位置づけ」

昭和 45 年度 主務  
昭和 48 年 法学部卒 勇崎 一敏

5月22日太田幹事長から干場会長が亡くなられたと連絡が入り、びっくりしました。

5月3日携帯電話を忘れて外出して帰宅して着信を見ましたら12時過ぎから5回電話をもらっていました。

慌てて電話して15分位話しました。

内容は血液の病気で入院している。

今期で会長を退任して後任は関東楡庭会の大野会長に任せたいので関西楡庭会会長として賛成して欲しかったです。

干場会長が熟考しての人事案と考えて賛成しました。

その後色々な話をして最後の言葉が120周年記念事業には退院して参加しますので再会を楽しみにしていますでした。

5月22日の太田幹事長の連絡は信じられませんでした。

干場さんは私が3年の時に入部してきました。

同期に松原(雄)氏、竹下氏、大堀氏等がいた強い年代でした。

松原(雄)氏のパワー、竹下氏のスマートさと違い

大堀氏も同じですが、泥臭い、不器用な印象でした。

主将となった3年秋の学生選手権で私同様シングルスで優勝されていますが努力、努力で勝ちえたと感じています。

2年時に4連敗中の北大での東北戦にナンバー6で出場してストレートで勝ってくれて北大3-1リードとして私のナンバー2時点での4-3リードに繋げてくれました。

私はナンバー2で3-1で勝ち東北戦に勝った学年の主将として卒業出来ました。

東北戦の勝利に貢献してくれて感謝しています。

ありがとう。

干場さんとの思い出はつきません。

4年の秋の学生選手権シングルスの準々決勝で粘られてテニス人生で初めて足をつって負けた事。

2015年姫路で行われた48年卒業の同期会に47年卒業の安達氏と特別参加して、林、安達ペアと干場、大堀ペアで5-6で負けた事。

120周年記念事業のテニス会で林、安達ペアと干場、大堀ペアのリベンジマッチが出来なかった事等です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(2022年6月28日)

2020年9月13日(日)、一通のメールを「To:清水大毅さん(R02年卒部)。Cc:干場信司さん。大野賢一さん。太田正人さん」に発信しました。

実は、このメールは、清水大毅さんには、「Failure Notice 不着」。Ccの三人だけが読むことになります。そのメールの文章は、つぎのとおりです。全文転載。

清水大毅さんへ

関東楡庭会の勇崎(s46年卒)です。

HP作成途中報告を拝見しました。

「サイドバーには試験的にFacebookを配置」「投稿しやすくなった投稿専用ページ」など、HPが一新される感想を持ちました。

楡庭会の会員は、OB約760名、学生約40名の約800名。年代も90才代から18才。

Facebookや、Twitter、LineのSNSでつながっている時代に、HPの意義はなんのでしょうか。

私は、部誌「楡庭」の掲載にあると思います。「楡庭 2018」から、紙媒体からHP掲載に変わりました。この掲載を何年かつづけ、10年つづくと、部誌=HPとなります。年1回、「楡庭パスワードの案内」が郵送される。そして、HPにアクセスする。HPの最大のコンテンツが、部誌「楡庭」、最新版と過去何年分が掲載されている。こうしてHPが会員間に定着するのではないのでしょうか。

SNSで、新しい媒体がつつぎに出現しても、部誌「楡庭」の最適媒体はHPではないかと思います。今回のHP作成作業に感謝します。

これをCcでみた干場信司さんから、突然に携帯電話がかかってきました。電話でのやりとりは、たぶん20分以上だったと記憶しています。

そのときの私との電話のやりとりを、干場信司さんが大野賢一さんと太田正人さんに伝えたのが、次のメールです。一部抜粋。

干場としては、卒部したての清水君に「楡庭会HPの意義」について意見することは、あまり好ましくないと考え、勇崎さん

と電話でお話しし、ご理解をいただきました。清水君は、「楡庭会がHPをデザインしてくれる人を求めているようなので、自ら手をあげた」という、今の楡庭会にとっては大変有難い存在なので、存分に若い力を発揮してもらいたいと思っています。それとともに、勇崎さんがご指摘下さった「楡庭会におけるHPの位置づけ」についても、意見交換させていただきました。干場としては、「現在、HPが十分な（期待しているような）役割を果たしているとは思っていない」のですが、「楡庭会の『縦の繋がり』を強くして行くためには、広い年齢幅の会員がHPを見てくれるようになることが最も有効な手段である」と思っていますので、その手始めとして、デザインの新装をお願いしているつもりです。勇崎さんには、この点についてもご理解いただきました。

清水大毅さんは、HPのデザイン刷新を見事にやり遂げました。そこで、もう問題はないと思い、そのときのやりとりを、こうしてオープンにしました。

私は、いまでも、自分の主張が正しいと思っています。干場信司さん。しばらく待っていてください。また、ふたりで論争しましょう。以上

## 干場さんの思い出

昭和 46 年度 主務

昭和 47 年 工学部卒 安達 隆

(あえて 敬称無しで)

干場が亡くなった。あまりにも急で、驚きと悲しみで一杯だ。大堀から電話が来て「お別れ会に来るの？」との問いに コロナのご時世、殆ど遠出もしていないので、その場ではつれなく「行く予定はしていない」と返事した。

その後、外出から戻った妻に訃報を伝えたところ、大堀も力を落としていることだし是非とも札幌に飛びよう進言があり、思い切って「お別れ会」に行くことにした。

干場との出会いは、私が2年の時の新生入生である。彼はコート(学園紛争で授業は無し)に来るときいつも学生服で、話し方も生真面目そのもの。後にテニスも相手が疲れるまで単調に同じコースに打ち続ける生真面目テニス。毎日、日が暮れ練習後皆が部室で着替えているときも、ロブを上げれば何とかカスト

ロークが出るので、大堀と暗くなるまでロブを上げていた。後に恐怖のロブ戦法が花開くのであった。

2年の春、B級選手権が北大コートであった。私は4年の中川さんと組んでB級戦に向け練習試合を大堀・干場組とした。雁行陣のテニスで大堀・干場がたまにネットに出てくれば干場にロブを上げれば、つなぎボレーが何度もネットを越さず中川・安達は練習試合で勝っていた。いざB級のドローでは準決勝で上田・中野組と当たり 決勝は大堀・干場組の予定。上田・中野組に勝てば優勝の目も大いにあったが、その試合だけは(あえて言う)上田のスマッシュが珍しく何度も決まり(勿論中野のスマッシュはお見事)我々は敗退した。

決勝は今でも伝え語られるCコートでの激戦。4年長友さんの進言「ネットの上田にロブを上げろ」で9-7 9-7で 大堀・干場の1年生ペアの優勝となった。

あの試合以来、攻めのロブは今の自分のテニススタイルに定着している。

東北戦に向けての夏合宿、レギュラーは5セットマッチのダブルスを午前、午後はシングルを2試合とタイトな合宿であった。灼熱の中、現在と違い上級生から水は飲むな!の言い伝えでダンロップの缶に満たされた氷水を口で漱ぐ事になっていた。林さんなんかは漱ぐふりしてチャッカー飲んでいたらしいが、干場は生真面目に一滴も飲まないでいた様で、卒業後の昔話ではあの時血尿が出たとのことだった。また仙台遠征の際、青函連絡船のデッキで大堀とボレーボレーをしたとか。。全く干場らしいエピソードだ。1年下には松原、竹下もおり4名のポイントゲッターのお陰で我々の最終年度の東北戦は仙台での20年ぶりの勝利を挙げる事が出来た。



主務であった私は5-1で勝利が確定すると目的を達した安堵感から優勝カップでサッポロジャイアンツでの皆で飲み廻しの手配に気を取られていた。なので最後に残った単2の干場対塚原のシングルの試合の応援を遠くから見ていたら、小林先生から「応援しに行かなくていいの?いやに冷たいなあ〜」と



言われた。あの時は干場に申し訳なく思っている。

彼の結婚は同世代の平均より5年以上は遅かったのでは？  
札幌での披露宴の司会は S49 片山秀策が晩婚の彼を進行の都  
度面白おかしく紹介していたのを覚えている。私の席の隣は帯  
広の S36 川端さんの御子息であった。

在京の同世代達も子供達が大きくなり、東戸塚・松原テニス  
コートに集合していた頃、干場がつくばに赴任したとのことで  
つくばに宿泊集合したことがあり、幹事の干場ご夫妻には大変  
お世話になった。

参加家族は 干場・渡辺(小林)・松原・高田・川西(長谷川)・  
安達(大氏)であったかと思うが記憶は曖昧。

その後彼が札幌に戻った頃、高松下宿人会が正月2日に定山  
渓であり S47 中野と行った際、干場から是非とも自宅に寄っ  
て欲しいとの事で二人はお邪魔させて頂きお昼に出前の寿司  
をご馳走になった。あのときお子さんが3歳位で一人だった  
か？

楡庭会活動にセッカチな自分とは対称に干場はゆっくりタ  
イプ。彼が北海道の幹事長であった頃だろうか？ 札幌から離  
れた東京では学生と楡庭会の活動がモヤモヤと感じられ歯が  
ゆい状況の時があった。干場から「安達さん 怒っているんだ  
ろうなあ～」と言われた事も。

あえて書かせてもらおうと、本来卒部時に楡庭会入会を大学院卒  
まで延長したのは彼の提案。残念ながら入会率が低い世代があ  
ることは残念なことである。



全国楡庭会総会(東京)後 東京スカイツリーにて

その後東北大 S49 石川悦三郎から、楡庭会では北大戦の前  
に激励会をやっていることや慶応大学では卒部時に OB・OG

会入会式として男子には慶応デザインのネクタイ・女子にはス  
カーフを寄贈しガッチリ確保していることなどを札幌に伝え、  
現在の七六・東北戦激励会 楡庭会入会式と取り入れてもらえ  
ている。

S48 同期集合に数回参加させてもらえ、数年前に芦別集  
合があった。私は帯広の S48 大沢さんの仲介で S36 川端さん  
S39 清水さんとお会いしたく帯広へ行く予定にしていた。そ  
の話を干場が乗ってきて卒部後の赴任地 新得でお世話にな  
った S39 清水さんに是非お会いしたいとのことで一緒に帯広  
に行った。



彼が北街道楡庭会会長となってから、全国総会・S48  
同期会参加・役員会 ZOOM やメールでの諸連絡など頻  
繁に会ったり連絡をしていたので突然いなくなったこと  
が信じられなく、今でも話しかけてくる彼の声が聞こえ  
てくる。この53年間、良き楽しき友人であった日々  
に感謝したいと思います。

干場信司さんの御冥福をお祈り申し上げます。

### 友人干場信司君

北大庭球部 元部長  
昭和46年度 主将  
昭和47年 農学部卒 上田 一郎

干場君とは、北大庭球部を離れてからは、北大農学部で二人  
が助手をしていた時に良く付き合っていました。

研究室が同じフロアーで近かったこともあって、夜になると  
よく彼の研究室に世間話をしに行きました。用のないのに夜遅

くに現れて迷惑だったかもしれませんが付き合ってくれました。

また自分の引っ越しを手伝ってもらったり、うちで夕食を共にしたりしたこともありました。ミネソタ大学に留学した時のことでは、深夜すぎても研究室の指導教授が帰宅せずに仕事をしているとぼやいていたのを覚えてます。

彼の一途なテニスを知っている人はよくわかると思います。が、何事にもブレないで、120%で向かってゆく人だったと思います。干場君、天国では少しゆっくりしてください。

## 干場信司さんを悼む

昭和47年 工学部卒 勝世 敬一

5月22日、干場信司さんの訃報を受け取りました。このとき、なぜ！どうして！という思いが頭の中を駆け巡るばかりで、なかなか受け止めることが出来ませんでした。彼とは、1学年の違いはありましたが、人生の若い一時期を北大庭球部で共に過ごし、そして今日に至るまで年に一度くらいはテニスをやり酒を酌み交わす様な付き合いが続いてきました。近年は腰の状態があまり良くなかったようで、テニスも時々休みを入れながら、というのは知っていましたが、まさかこのようなことになるとは想像もしていませんでした。

卒業後、彼は北海道立畜産試験場に、私は北海道立工業試験場に就職しましたが、しばらくは連絡を取ることもないままに過ぎてゆきました。再会することになったのは2004年です。当時、農業系の4機関（北大農学部、酪農学園大、農水省北海道農業研究センター、道立中央農試）で交流テニス大会を開催しており、そこになぜか工業試験場もお誘いを受けたのです。その年、幹事機関を務めていたのが酪農学園大で、その中心にいたのが教授の干場さんでした。32年が経っていましたが、しぶとくつなぐテニスは現役時代そのままでした。それ以来、年1回の5機関交流テニス大会や、テニス部昭和47年組（前後）の同期会、あるいは楡庭会などで、酒を酌み交わしテニスを楽しみ、18年になりました。残念ながら、この3年間は新型コロナウイルスの流行で多くの催しが中止を余儀なくされ、2021年4月29日に平岸庭球場で催された北海道楡庭会のテニス会が、彼との最後のテニスになってしまいました。

干場さんの思い出の中で特に強く残っているのが教育者としての顔です。本業として酪農学園大学で教鞭をとっていたの

で、もちろん酪農教育の分野で大きな業績を残しました。しかし、それにも増して印象に残っているのが、夜間中学の取組です。いろいろな事情で学校に通えなかった人のために民間の自主夜間中学「遠友塾」を運営するとともに、公立夜間中学の設置を求める活動に精力的に取り組んでいました。

理想の教育について熱く語る彼の姿からは、札幌農学校の先輩であり遠友夜学校の創設者でもあった新渡戸稲造のイメージがダブってくるのです。

お別れ会の日、式場に眠る彼の姿は生前そのままに、穏やかな顔をしていました。もし天国で一緒になったら、またテニスを楽しみたいものです。

干場信司さんのご冥福をお祈りします。 合 掌

## 干場と私と庭球部

北海道楡庭会 会長

昭和47年度 主務

昭和48年 工学部卒 大堀 隆文

干場が亡くなった。世の中にこんなに悲しいことがあるとは、早すぎる死に呆然としながらも干場の思い・残した言葉にこたえて生きて行くのが我々にとっての最高の供養になるだろう。以下干場との生前のかかわりあいを思い出してみます。

私が干場と初めて会ったのは教養部の講義で、そこには松原もいた。干場と松原は同クラスで私は隣のクラスでよく講義で顔を合わせた。2人に勧められて私も庭球部に入部した。松原は高校チャンピオンで別格の扱い、干場と私は入部直後の1年の春にいきなりダブルスを組まされ北海道B級戦に出場した。とんとん拍子に決勝まで勝ち上り決勝の相手は2年生レギュラー上田・中野ペアだった。劣勢だったが4年長友先輩と3年林先輩のアドバイスでロブを多用し何とか優勝できた。しかし後で思い返すと、このときのロブが命取りとなり強い球を打てるようにならなくなったと勝手に思っている。

入学後すぐに学園紛争が激しくなり休講が続いた。干場も私も他にやる事が無いので、毎日朝から晩までテニス練習に明け暮れ、日没後もロブ練習はできると干場と2人で夜遅くまで練習した。テニス漬けの割にはテニスの腕は上がらず、干場に抜かれレギュラー争いで負ける。1年の頃は私の方が少し成績が良くペア名も大堀・干場だったが、2年後期からは干場・大堀に逆転した。

干場・大堀のペアはサーブは蝶が止まるほど遅いがサービスダッシュは速く、ボールより速いのではとからかわれた。何と言われようと先輩からネットを取ることの重要性を叩き込まれていてこのやり方を死守して全道2位まで昇りつめた。またどんなにミスしてもパートナーを怒らず互いを慰めるようにドンマイを繰り返すのでまるで「老夫婦」のようだと言われた。

練習終了後に毎日ポプラ並木への約3 kmのランニング競走を行った。私も足には自信があったが干場にはかなわず彼はいつも1位だった。干場はテニスと同様ランニングでも決してあきらめず最後まで戦った。1度だけスタートダッシュで大きく引き離し干場を諦めさせて勝ったことがあったが。

3年になり主将を決めるのだが、先輩の指名が慣例だったが松原の提案もあり部員投票をしたところ干場が主将に選ばれた。主将になった干場は上下関係を嫌い従来下級生の役割だったボールボーイやコート整備を全員でやる方針を打ち出し自らも率先して実行した。もっとも過渡期の学生は下級生のときも上級生になってもコート整備をしたことに少し不満のようだったが、

4年になると、干場主将のリーダーシップと有望な新生が入部したことにより、北大庭球部の1つの黄金時代を築いた。道内の団体戦は3年秋から王座まですべて9-0、王座対東北学院戦8-1、東北戦9-0、全国王座でもデ杯選手のいる法政大に善戦した。

農学部卒業後は道立畜産試験所、北大教員、国立試験場、酪農大と度々職場を変え、酪農大では学長に選出された。干場はどの職場でもどんな人とも対等に接し決して威張ることなく、学生、教員、関係者からの信望が篤かった。卒業後は一緒にテニスをやる機会が減ったが、北大農学部時代に、私の職場の北海道科学大と団体対抗戦を数年対戦した。毎年NO1ダブルスで対戦したが学生時代同様一度も勝てなかった。

お互い退職するとテニス好きの2人は度々練習や試合に出るようになった。コートは干場の本拠地である野幌運動公園と南幌コート、私の科学大コートとばんけいなどだった。2年目に腕試しに年齢別のダブルス大会に複数回出場した。出場ペアは我々の知らない内にかかなり上達していて昔の様には勝てなくなっていた。それでも札幌ベテランテニスでは、4ペア総当たりのリーグ戦の結果1勝2敗で帰ろうとしたところ本部に呼び止められ1位は3勝、2位は1勝2敗が3ペアあり、ゲーム差で我々が2位になった。この試合が干場と組んで入賞した最後の大会となった。



最近の試合も昔のように「老夫婦」のようにお互いを労わるペアに変わりがなかったが、時おり私のミスの原因を指摘してくれるようになった。私は次の試合で欠点を治そうとすると、今度は別の点を指摘してくれる。これを続けていけば我々のペアも進化し、いつかベテラン大会でも活躍できるようになると思われた。しかし、進化の半ばで試合が続けられなくなったのは悲しい。もう干場からアドバイスが聞けないのが寂しい。

**干場氏、同期の佐々木です。**

**昭和47年度 北海道学連幹事長**

**昭和48年 法学部卒 佐々木 幾郎**

この度の干場氏の訃報には、大変驚きました。正直、突然すぎでまだ信じ難いです。本当に残念です。

まず思ったのは、干場・大堀のペアは最高でした！そして、彼がキャプテンだった時の事です。広いテニスコートに散らばったボールを、黙々と拾い集めていた姿です。その背中からは、特に後輩たちに地味な仕事の大切さを語っているように見えたものです。決して押しつけがましくもなくです。時にユーモアもあり、熱くテニス部を引っ張ってくれた、立派なキャプテンでした！！ 本当にありがとうございました。

次に家族からも、干場氏の思い出です。

主人と結婚した年の夏から、私は札幌に帰省する度に干場さんや大堀さんのご手配で、北大のテニスコートに遊びに行かせて頂きました。毎年夏休みの都合の合う方々が集い、昼間はテニ



スを無邪気に堪能し、夜には食事やビールをワイワイと！それは子供が生まれてからもしばらく続きました。ほんとに楽しい時間でした。

また干場さんがつくばに居られたころ、我が家は千葉に住んでおりましたので、時々つくばに呼んでいただいております。お邪魔させていただきました。奥様にも良くいただきました。いつも干場さんからお声をかけていただき、関東近辺のOBの皆さんが集合して、賑やかなテニス大会もありました。

中でも思い出深いのは、娘が5歳くらいだったと思います。数組の家族でつくばでテニスを楽しんでいた時に、娘がお気に入りのうさぎのぬいぐるみをコート近くの池ふちに落とすまいました。自分で取ろうとしたようですが、するすると滑って水の中へ。。大泣きする娘に主人は「もうしかたないよ！」と叫びましたが、その時干場さんが「大丈夫、ちょっと待って」と優しく娘に声をかけくださり、長い棒を探してきて下さり、そこにいらした皆さんとぬいぐるみを救出して下さいました。娘は嬉しくてまた大泣き！そのときの干場おじさんの優しかったこと、今でもはっきり覚えているそうです。そのウサギのミミちゃんは、今も我が家で暮らしています。

また7年ほど前に、我が家のある姫路で同期会を開催していただいた折、娘も一緒に皆さんに逢いに行きました。その時干場さんは、「茜ちゃん？大きくなったね！」と30過ぎた娘に。  
(笑)一緒に連れて行ってた孫を優しく抱き上げて「かわいいね！」と言ってくださいました。その娘に干場さんが亡くなった事を知らせると、びっくりして「あのジェントル干場おじさんが、、」と絶句！「また逢いたかった。」と話しました。

息子もやはり皆さんにお逢いしたいとその夜、酒宴の席に顔を出しました。干場さん、息子にも「公亮君？大きくなったね！」でした。息子は照れながら苦笑していました。今回のことで、干場おじさんの温厚な雰囲気と優しい語り口調が忘れられないと話していました。私も、干場さんにお目にかかるたびに、優しい微笑とお心遣いに癒されました。感謝しております。

同期の皆さま方は、本当に仲が良く無邪気にテニスを楽しみ、たのしくお酒を飲みと、主人は本当にいいお仲間がいて、恵まれているなあと思います。その中心的存在の干場さんが亡くなって、寂しいですね。

あらためて、ご家族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。  
千恵美

最後に佐々木家一同、干場氏のご冥福をお祈りし、追悼文とさせていただきます。

## 干場君の思いで

昭和48年 獣医学部卒 竹下 章

干場君との出会いは、昭和44年の春、東大入試のなかった年です。小学校から高校まで軟式テニスの前衛をやっていた私は、入学後は硬式テニスと決めていました。ところが練習は毎日毎日、素振りと球拾いばかりでうんざり、高校での経験者ということでコートに入る干場、大堀両君を羨ましく眺めていました。大学紛争の始まりの時代で授業、講義もなく朝から晩までテニスに明け暮れ、干場君に早く追いつこうと頑張っていました。図書館を封鎖していた革マル派から投石されながら部室に泊まって練習したこともあり。練習にうちこんだ甲斐があって1年の秋、B級戦で干場君と組んだダブルスで優勝できました。シングルスは彼に粘り負けしました。干場君に勝てたのは2年の春の学生選手権1回きりで、彼の粘り強さにはかないませんでした。

卒業後、干場君は新得畜産試験場、私は釧路地区農業共済組合音別支所に勤務となり、帯広のテニスクラブに所属して、都市対抗戦を楽しんだりしました。昭和49年の5月の連休、札幌の帰り道、狩勝峠で猛吹雪に会い、夏タイヤの二人は深夜死ぬ思いで帰宅した事を思い出します。畜産関係という共通の仕事柄、牛舎の事等酪農家の悩みや疑問点を教えて頂きました。

昭和50年2月から私は、釧路町の家畜診療所に移りましたが、彼は北大に移り研究に専念していました。ミネソタ大学留学後、いち早く釧路に立ち寄りカーフハッチ（彼の博士論文のあたたかかった基礎）を紹介してくれました。現在の畜産現場では当たり前に使われている仔牛の育成小屋ですが、当時、この寒い北海道で大丈夫か？と思われましたが、絶対大丈夫と力説され、直ぐに酪農家に紹介したものです。安価に製作でき、衛生的で、現在使用していない酪農家はいないと思います。

農水省の試験研究所を経てから酪農学園大学時代には牛舎の設計基準見直しとのことで、士別市まで来て厳冬期酪農家の庭先にモニターカメラを設置し、積雪量と屋根の構造の研究を進めていました。また休学中の学生の様子を尋ねたり、大学の学生募集の為に道北地方を巡回訪問したり、研究以外の仕事も

精力的にやられていました。そんな干場君ですので私の関係している酪農家には、教え子たちが大勢いて、夫婦で同じゼミ出身とか、親子で講義を受けたと話してくれます。彼の飾らない人柄が私達みんなを結び付けてくれました。

毎年恒例の同期会（48年卒）がコロナの影響で2年中止となり、今年の7月に会えるのを楽しみにしていたのですが突然の訃報、残念でなりません。

温厚で誠実だった干場君、力強く粘り強かった干場君、優しく暖かかった干場君、君に出会えてありがとうございました。

## 干場さんのこと

昭和48年 理学部卒 野口 伸一

この2年間コロナ禍で延期となっていた同期会を、「楡庭会120周年記念会」と「S46卒部50周年±3年会」に合わせ札幌で開こうと、大堀さんと干場さんが幹事役で進め、皆に会えることを楽しみにしていた。5月22日の夕方、大堀さんからの突然の知らせに今でも半分信じられない思いでいる。

学園紛争が盛んだった昭和44年の四月、硬式庭球部に入学した。干場さんは最初の頃、学生服姿だったと記憶している。1年目の冬、忘年会を兼ねて干場さんのご自宅に同期生の大勢が集まり、楽しいひと時を過ごした。彼が初めて就職した新得畜産試験場にも皆で出かけ、宿舎に寝泊まりしてテニスや牧場の馬に試乗したりしたこともあった。

練習の後、ポプラ並木までのランニングで、颯爽と淡々と走り込む彼の姿。その足を生かして試合では、何度攻め込まれても返球しながらラリーを続け、ここぞというときにポイントを重ねる。その粘りに相手は終に音を上げる。主将としても様々な問題やハプニングに柔軟に対応して皆から信頼された。ときおり彼の口からボソッと出てくるダジャレに、回りから「また干場のダジャレが出た」と笑いが起こる。

彼の姿勢は専門分野でも発揮されたようだ。循環農法や持続可能な農業、経営の多面的評価など、彼のアイデアを生かした取り組み。いつだったか彼の車に同乗した時、酪農農家の実情など現場での調査研究について話してくれた。生産性向上や収益増大などの技術改革・施策とともに、酪農家の主婦の働き方や生活改善も効率化の課題であることなど、彼の考え、思いを聞いた。彼が目指したのは、単に‘農学’というより農学を通じた実践的な‘人間学’だったようにも思える。

大学の教員として多くの学生の指導や研究に携わり、さらに

学長の役職では、困難な問題や雑事などで多忙な日々を送ったであろう。困っている人や出来事に黙って見過ごせない彼の性分、何事にも熱心に取り組むだけにストレスも相当あったのではと推察するが、それを感じさせない、表に出さないのが彼の姿勢だったのかもしれない。

毎年、新年のメール年賀「楽雪待春」が送られてきた。ここ1、2年の抱負を読み返してみると「体調に問題が見つかった」、「病名は増える一方」などの文面が。しかしその後「でも毎日元気に過ごさせてもらっています」と続くので、相変わらず元気なように気軽に受け取っていた。まだまだやりたいこと、やり残したことがあり、無念であったと思う。でも今はどうか少しゆっくり休息を取りながら皆を見守ってほしい。

(令和4年7月2日)

## 干場とぼくとテニス

(昭和47年5月発行 部誌 TENNIS '73より)

昭和47年度 副将

昭和48年 工学部卒 松原 雄二

我々の学年が庭球部に存在していたことのことを考えると、必ずでてくる名前、それが干場信司なのです。

ここまで読んで変な顔をしている干場が目につくようです。四十四年の入学式の日、この日から北大は紛争で、庭球部は変な新入部員たちにより、それぞれに乱れ始めたのです。

さて、その入学式の日、僕は干場に会ったわけです。初めてクラスに行くと、変なやつが声をかけてくるではないですか。テニスをしていた松原ではないか、と聞くのです。僕が、そうなのですが、あなたは、と聞くと、自分は干場だということです。そう言えば、あの頭を刈ってしまって、ポーズにしたら、あのメガネの干場さんではないですか。このようにして、我が北大の理類の秀才コンビは、共によく学び、また恥をかくことになったのです。

1年目のあの勉学の日々は、ただの1か月で終わり、それまで北七条まで乗っていた電車も、正門前より北に乗ることがなくなっていました。午前中、テニスコートで干場・大堀・竹下、その他仲間たちと親交を深め、昼はクラ館で共に食い、中央ローン体を休め午後、再びコートで親交を深め合い、三時過ぎになると、図書館の片隅のプライベートルームにこころを清め、昼間充分に休めた体で、四時からの練習に参加したので

## 干場さんを偲んで

昭和 48 年度 主務

昭和 49 年 歯学部卒 川浪 雅光

あれは何の時だったか忘れてしまいました。僕と干場は長い試合をしてしまいました。きっと合宿の5セットマッチだったので。勝っていた僕は、下からサーブしたり、めちゃくちゃ打ったりして、気の入らない試合をして、結局は勝ったのですが、試合の後、干場にみっちり、怒られてしまいました。僕は適当に反論しましたが、干場をごまかすことはできませんでした。干場は気の入らない試合をした僕に負けて、本当に悔しそうでした。僕はそれ以来、気の入らない試合は絶対しないことにして、今日まで続けています。本当に気の入らない試合は何のためにもならないのです。干場が怒ったのを見たのは初めてでした。あの時は本当におっかなかった。

干場は大事な試合の時に頼りになる男です。それを最初に見抜いたのは、僕達が二年生の時の主将であった林さんでしょう。二年目の春、大事な商大戦の単六位に干場を起用、干場は0-5の劣勢からロブを使い、18ゲームを連取して小浜さんに勝ち、北大は5-4で幸勝したのです。

又、四十七年の東北戦で北大の主将として、最後に四時間以上のフルセットの熱戦を展開して、東北大主将の石川悦三郎君を破り9-0の記録を作りました。干場から後に入った僕は、彼の試合があんまり長いので先に終わってしまい。見られなかった試合は2セット目だけでした。僕は3セット目から応援に回りましたが、北大は全員が、干場は今負けていても、最後には勝つと信じていたようでした。

干場は現在、新得の畜産試験場で牛を追っかけています。テニスでは、帯広庭球協会の星として活躍中で、帯広では大沢がいつも、竹下もたまにテニスを続けているようです。

また干場はこの三月末に行われる全道室内に於いての名コンビ大堀と組んで出場予定なので今から楽しみです。これが活字になるころには、新聞にも活字となって干場の名前が出ているでしょう。もしかしたらホシバではなくセンバさんとして出ているかも知れません。

帯広では現在、川端先輩が中心になってテニスをしているそうで、新得の清水先輩や他の人たちも大勢プレーしておられるようです。僕も今年は干場と約束したので最低でも二回位は帯広で干場とプレーする予定です。

以上ごちゃごちゃに書いてみました。後で読むとなんだかわかりません。きっと、ただ庭球部には素晴らしい仲間いて、テニスを続けているとだけ言いたかったかも知れません。

北大工学部原子工学研究生  
四月から大学院へ行くため  
ズ〜っと現役のつもり

干場さんを思うと、誠実、実直、信念、集中心、TOUGH、正義、寛容、笑顔、確信、直進、無私、謙虚、徹底、自己抑制、持続心、平和希求、・・・などが浮かんで来ます。

干場さんほどの人格者で信念の人には私はめったに会えない。大学人としても、学園のあるべき理念を守る為の正義の戦いに勝利されて、後進に正しい道と希望を示されました。最近まで、テニスをされてたと聞いていたので、まだまだ活躍されると思っていましたが、神様に連れて行かれてしまいました。安らかに天国で過ごされますようにお祈りいたします。

## 「干場さんの思い出」

昭和 48 年度 主将

昭和 49 年 工学部卒 桑田 雄平

干場さんとは学生時代、卒業後の楡庭会と50年近い付き合いとなった。

学生時代は私の1年先輩。粘り強いシングルでのプレーぶり、老夫婦と称されるお互いをいたわるダブルスの干場・大堀組などで活躍された。私は2年生の時から干場・大堀組と安達・桑田組などで東北戦の出場や順位を賭けて戦ったが、勝てそうなのに毎回僅差で負けた。

学生時代の干場さんは北大庭球部で学生はどのようにテニスに臨み、体育会の庭球部はどのような価値観で運営されるべきかを熱く語り、主将として態度で示した。部の運営はできるだけ平等に、レギュラー・イレギュラーの垣根を低くして全員で盛り上げるというもので、主将も部員全員での選挙で決めた。

後輩から見ると誰しも認める偉大な存在で、優しくもあった。ただ、その芯はかなり堅かった。私は1年下の部員として、また主将として干場さんを身近に見て、部の運営も一応踏襲していたがとても真似のできるものではなくかなり辛かった。

卒業後、干場さんはOBとして学生の励ましや、楡庭会の運営で関与を強めていかれた。私は学生時代のしんどさもあり楡庭会とは距離を取っていて40年近くが経過した。

そんな中、干場さん、楡庭会との関係が深まる機会が再びやってきた。干場さんが能勢先輩の後、北海道楡庭会の会長に就任され、楡庭会会長は関東楡庭会の安川先輩が就任された。干

場さんは当時酪農学園大学の学長を務められていて極めて多忙であった。

2014年、私は勤めた会社を退職し、社団法人で第2のお勤めの最中であつたが雪道で転倒して5週間の入院中であつた。そのベットに干場さんから突然電話があり、北海道楡庭会の幹事長を務めてほしい。しかも北海道楡庭会の幹事長は全国楡庭会の幹事長も兼務することだった。私は手術を翌日に控え、骨折した足は丸太のようにむくんでいて、楡庭会云々と言われても上の空で、強く断る気力はなかつた。

退院して全国と、北海道の幹事長を始めてみるとこれがとんでもない激務であつた。

まず、楡庭会の会計を理解して再整理して監査報告をするのに、現会計の加藤さんと二人三脚で1年以上かかつた。

また、会費滞納者に部誌を送らないこと、郵便振替による会費納入が始まるなど部誌の発送作業など複雑さを極めた。

イベントも多かつた。北海道の楡庭会総会、全国の総会、役員会の運営は勿論のこと、大学総長・大学事務当局へのコート整備の陳情はとても大切ではあつたが、そのアポ取り、資料作成と仕事は多かつた。

急場の幹事長就任なのでやり方を改革するよりは何とかミスなく事務方の仕事をこなすので精一杯であつた。

第2のお勤めでは国の関係機関が私にポストと個室を用意してくれたが、最後の2年間、個室にいるのをいいことに出勤しても楡庭会の作業や連絡が中心で、楡庭会関係のメールはその後4年間で受信5000通、発信3000通に及んだ。お陰で楡庭会の多くのメンバーや学生諸君とも知り合いになり、楡庭会の会計にも詳しくなつた。大変だつたが干場さんからの突然の電話のミッションは何とか終わることができたのではないか。

私は札幌での幹事長の役目が一段落したので横浜にお転居し、残りの役目のテニスコート再整備も何とか終えて維持管理は札幌の干場さんに引き継いでいただいた。

干場さんはその間、北海道楡庭会会長として、会のあり方、実働会員の増やし方など、ここでも楡庭会全員での盛り上げかたにいつも気を配っていて、そのための行動を着々と進めていかれた。さらに、その後は全国楡庭会会長となり、干場イズムを発揮して、これから楡庭会全体を盛り上げていこうという矢先の突然の病と死であつた。

干場さんは常に大きい価値観と人柄で組織を引っ張っていかれる方であつた。

2、3年前、全国楡庭会の総会を関東で開催した折、干場さんが上京され久々に顔を合わせた。その時は腰が痛いとか言わ

れていたがプレー振りは往年を思い出させるものだった。私の方が弱っていたので干場さんに「私が死んだ時には何か一言お願いします。」と冗談半分で言うと、真顔で「自分の方が先かもしれないので・・・」と返された。このやり取りが本当のことになってしまった。

合掌

## 「誠実な人柄、人格者だつた干場さん」

昭和49年 工学部卒 成田 吉弘

干場さんから見ると、私は1年後輩になります。我々の期は、高校時代のテニス経験者が少なくおとなしい学年でした。大学の体育会の部活動で、ほとんどの入部者が初めてラケットを握るといふのは、今の時代には考えられないでしょう。逆に干場さんの学年は、松原さんを筆頭に圧倒的なテニスの実力を誇る学年でした。札幌中島のコートで確か法政大学と団体戦、No.1(松原さん)、No.2(干場さん)のシングルスはすごい熱戦だつたのを覚えています。

私にテニス論を語る資格はないのですが、一度干場さんが、「自分のプレーを、限りなく機械のように正確にしたい」と言っていたのが印象にあります。当時のプロで例えると、バックハンドスライスのストロークプレイヤー、ローズウォールでしょうか。ちなみに冬の札幌にデモ試合に来た彼とクリフリッチー、スタンスミスらの、今はない中島スポーツセンターの床にカーペットを貼ったコートでボールボーイをしたのは良い思い出です。干場さんはダブルスでは大堀さんとお互いにいたわり合うような粘り強いペアで、ダイナミックな松原竹下ペアとの静と動の対戦は今でも観戦したい気持ちになります。

ただ干場さんに対しては、テニスを超えた「誠実な人柄」を一番強い思い出として持っています。誰と接しても変わらない暖かい態度です。キャプテンにも選挙で選ばれました。職業人としては、私と同じ大学教員であり、干場さんは北大農学部から私学の酪農大学に移られました。道工大から北大に移った私とは逆のパターンでしたが、しばらくしてお会いすると、酪農大学での実践的、現場的な教育研究環境が楽しいと言っておられました。道工大の先生と畜舎の共同研究もされていました。この30年ほどは親しくお話する機会は少なかつたですが、教育者として道内にたくさんの優れた教え子を送り出したことと思います。残されたご家族への慰めと心からのご冥福をお祈りします。



## 干場会長を偲んで

北海道大学楡庭会 会長  
昭和49年度 主務  
昭和50年 理学部卒 大野 賢一

干場会長の訃報を知ったのは、関西の同期の高田君からの電話で、5月22日19時過ぎ頃のことです。慌ててメールを確認したところ、北海道の太田幹事長から訃報連絡が届いていました。そのメールを見ても逝去されたとは思えず、いまだに実感出来ておりません。

干場会長とは4月3日に電話で話をしていたので、まだその声が耳に残っているからなのかもしれません。その時は入院中とのことでしたが、声はしっかりしていて病氣療養中とはとても思えず、熱く楡庭会のことを語っておられました・・・それなのに、あまりにも急すぎます。

干場会長は私より2学年先輩なので同時期に庭球部にいた頃からお世話になっております。それなので、親しみを込めて普段通り「干場さん」と呼ばせていただきます。

干場さんは、早くから北海道楡庭会の幹事長・会長を務められ平成30年からは楡庭会（全国）の会長も兼任されておりました。特に酪農学園大学の学長時代はかなり厳しい状況だったとお聞きしていましたが、そんな素振りはまったく感じさせませんでした。

干場さんの「凄さ」は、ただ横で見ているだけでは分からないところにあります。穏やかで優しさにあふれた話し方や物腰、あるいはテニスのプレイを見てるだけでなく、直接話しあったり、直接ボールを打ち合ったりしないと分からないと思っています。

### ① テニスについて

干場さんの時代は北大庭球部に何回かある黄金時代の一つだったと思います。干場さんの他に同期の松原さんと大堀さんという強力なポイントゲッターがいて、団体戦では安心して応援することができました。干場さんがキャプテンだった4年生の時の東北大戦では9-0で勝利したことを記憶しています。

（私はもちろん応援です）

そんな身近な干場さんでしたが、私は干場さんとこれまでたった2回しかテニスをしたことがありません。私がまったくの初心者だったこともあり学生時代は言うに及ばず、卒業後は北海道と関東と離れてしまいテニスをする機会がありませんでし

た。それなので、干場さんと初めてテニスをした時は、緊張のあまり身体がガチガチになったことを思い出しています。

それは3年前の6月23日、関東で行った楡庭会の全国総会に干場さんが札幌から上京された時でした。実に出会いから50年目にして初めてのテニスです。緊張して当たり前だったのだろうと思います。

それまで私は、干場さんのテニスを守備的なものと思っていました。派手なスマッシュも打たなかったですし、あまりにも鉄壁な守備に相手が根負けするのだと思っていました。しかし、どうも私の見方は違っていたようです。

1球目で何か違和感を覚えましたが、10球くらい打つてようやく分かってきました。

ボールがすごく重いのです。そんなに早いわけでもないのにボールの重さに押されて上手く返せません。打球の質が違うのだと分かってからは、全盛期のボールの威力はどれくらいだったのか想像するのが楽しかったです。スピードではなく重さとコースを重視した攻撃型プレイヤーだったのではないかとようやく気付いた次第です。

しかし、もう干場さんとテニスをすることは出来ません。もっと一緒にテニスをやりたかったとつくづく思います。

### ② 楡庭会について

楡庭会の目的は、「会員相互の親睦」と「学生への支援」の二つですが、大先輩から卒部直後の若手まで幅広い年齢層・世代で構成されていますので、その運営や会員間の交流の進め方にはいろいろ難しい面があります。



干場さんは、学生への支援を継続・強化してゆくためには会員相互の親睦が基本だと常々強調されておりました。楡庭会の結束力を高めるためには、日頃から世代を超えて会員の親睦を深めておく必要があります。数年前だったと思いますが、若手OBOGが社会人の団体戦に参加すると聞き、応援に足を運ば

れておりました。そして、若手がチーム名に「楡庭会」という名を付けてくれたことを大変喜んでおられました。若手にも楡庭会の精神が通じているとの確信を待たれたからではないでしょうか。

また、役員役割についても柔軟に考えられておりました。干場さんが楡庭会の会長になられて少し経った頃に言われた言葉を思い出します。

それは楡庭会における年長者の振る舞い方でした。楡庭会という組織は世代交代で若い人にいろいろな役員をやらせてもらうことが必要ですが、若い人は他に仕事もあり時間的な余裕がないので、我々年寄が裏方として（実務の一部を率先して実行するとか）支えることが重要ということです。楡庭会は基本的にボランティアの団体ですので、建前論で仕事を押し付けるのではなく、それぞれが出来る範囲で協力し合う気持ちが一番大切だと教えられました。

今、北海道楡庭会が中心となって7月の北大庭球部120周年記念事業の準備を進めております。また、学生のテニスコートについても長期的なメンテナンス・改修工事計画を作らなければなりません。本来ならば、干場さんが先頭に立って推進されていたはずですが。志半ばで病に倒れるのは誠に無念だったとお察しいたします。

これからは、残ったみんなが干場さんの志を受け継ぎ、楡庭会を運営してゆくことが供養になると信じます。

どうか、ゆっくりお休みください。そして、これからも天国から暖かい目で後輩達を見守っていただきたくお願いいたします。

## 干場さんの思い出

昭和49年度 主将

昭和50年 農学部卒 川西 龍一

干場さんが急逝されたとの連絡を受け、あまりに急な話のため信じられなかったのですが、心からの敬意と哀悼の意を表します。干場さんの2年後輩の主将として、思いつくままに思い出を書いてみます。

毎日の練習終了後に、コートからポプラ並木の奥まで走って折り返し、クラーク会館の前を走ってコートに戻るのが日課でした。今ではポプラ並木に入ることもできないのですが、当時は両側にそびえるポプラ並木の中を走っていて夕日が沈むのがきれいでした。ランニングではいつも干場さん、大堀さんでトップ争いをしていたのですが、皆を引っ張るために頑張っ

ておられたのが記憶に強く残っています。

私の2年生後半の学部移行の時に、当時の主将だった干場さんから話があると呼び出されて、「川西君もこれからテニス部の主将をするのなら、うちの学科に来ないか。遠征が続くとか負担が大きいので、農工（農学部農業工学科）に来た方が良いと思っている。考えてみてほしい。」と言われ、あまり深く考えずに「分かりました」と答えて、農業工学科（農業土木専攻）に進むことになりました。そのため、干場さんはテニス部でも先輩でしたが、学科でも先輩になりました。このことで、将来の就職を含む人生がある程度決定することになったのですが、その時は深く考えておらず、結果的にも干場さんの助言に対してここから感謝しています。ありがとうございました。



【昭和46年の東北大定期戦】

左から 川西、高田、安達、中田、矢原、常俊、片山、大野、小田、干場、宮崎、栗田、川浪 中野

また、テニスの試合を振り返ってみると、何故か干場さんとの試合は1度しか記憶にありません。他の人とは何回もやっているのに、公式戦で当たったことが無く、練習試合を一度だけ対戦したことしか思い浮かびません。それも、昭和47年の大学王座全国大会から戻ってきたばかりの時で、この時は全国トップの派手なテニスに憧れ無理をして攻めてしまい、堅実に返してくる干場さんの相手にもならなかったと記憶しています。

干場さんとは一度酒を酌み交わしながら、じっくりと御礼を言いたかったのですが、もうそれもかなわないと思うと残念で仕方ありません。もう走ることも無いので、やすらかに眠り下さい。

## 干場さんのこと

昭和 49 年度 副将

昭和 50 年 工学部金属工学科卒 栗田 正樹

- 初めて会った時 声が優しい
- プレー 細い足でどこまでも走る
- ポプラ いつも 1 番、私は 2 番 勝てなかった
- 学長になってから学長室を訪ねたことがあります。
  - ・学内のことや、困ったことを熱く、丁寧に、優しく話してくださいました。教育者がとても似合っていました。
- 思い出すことが多くて・・・あまり書けません。
- たぶん皆さん書くだらうけど「天国でも楽しくロブ上げてください」

## 干場全国楡庭会会長を送る

中京楡庭会 会長

昭和 50 年度 副将

昭和 51 年 経済学部卒 大浦 裕

5月3日に電話を頂きお話しをしたばかりなのに、22日に訃報とは。入院中で前回の役員会も病院からと聞き驚きましたが、声は何時もと変わらず通り元気そうでしたのに。

干場さんとは、昭和47年に小生が入部した時の主将として出会い、爾来50年やはり一番印象に残っているのは、東北大戦に9-0で勝利した瞬間でしょう。最後まで残ったNO.2の試合をフルセットの激闘のすえ勝った光景、感激は忘れられません。スコアは楡庭の青春群像(90年史)を参照願います。

入部後の6月頃、小生の実力把握のためでしょうか練習中に試合が組まれました。スコアは0-6、ミスが無く返ってくる、まるで壁と試合をしているようでした。当然夏合宿でも試合は組まれず、この試合が最初で最後となりました。当時のことを話題にすると、「実力が下の者との試合には1ゲームも与えない。」とテニスに対する真摯な姿勢を聞き、強さの一端を垣間見たような気がしました。

2017年6月、全国楡庭会総会が東京で開催された際、安達夫妻の案内で干場さん、大堀さん、小生の5人で東京スカイ

ツリー、大堀さんは先に帰られ、4人で浅草寺観光と昼食です。安達さん曰く、干場さんは好き嫌いが激しく第1シードの蕎麦は駄目、第2、3シードも駄目だと、それでも「どぜう」は苦手と言いながら美味しそうに食べていた姿は忘れることができません。



全国楡庭会会長として、楡庭会の課題、今後の活動、若手会員の参加、個人の負担軽減など幅広い問題意識を持たれ対処されていました。まだまだこれからというとき、全国楡庭会会長として120周年記念事業を成功させていただきかけた。

退院後にはまた一緒にテニスを約束したのですが、反故にされてしまいました。口惜しい。ただただ悔しいかぎりです。

安らかな眠りをお祈りいたします。

## 干場先輩を偲んで。

昭和 53 年度 女子主将

昭和 54 年 文学部卒 田中 裕子

この度の突然の訃報に、いまだショックを隠せずにおります。干場さんとの関わりは、主にOB会を通してでしたが、気さくで温かく、いつも笑顔の干場さんには、こちらも笑顔でお話できました。確か1昨年前、清田に新しくできた室内テニスコートであったOB会テニスでのことです。私が持参したコーヒートを床にこぼしてしまい、戸外の雪を持ってきて、コーヒ跡を何とか綺麗にしました。そのときに干場さんが、「そういえば、自分は雪の勉強がしくて、北大に来たんだよ。」と北大を選んだいきさつを話してくださいました。その後、私も北大に通っている時には気づかず、卒業してから、素敵な構内だと改めて思い、ポプラ並木をこの間見に行って、新渡戸稲造先生の胸像が建っていて、感動しました、とお話しました。すると「ぼくは新渡戸稲造先生の遠友夜学校の流れの、遠友塾のボランティ



アをしているよ。」と教えていただいたのです。私はクリスチャンで、新渡戸稲造先生のことを教会関係の講演会などで知って、遠友塾に関心をもっていましたので、そのお話を聞いて、すぐに私もお手伝いしたいと言い、申込みの方法を聞いて手続きしました。その後、遠友塾では、干場さんは「じっくりクラス」私は3年生所属で、頻繁には、お会いしませんでした。色々相談に乗っていただきました。入院される直前まで、会議にも出席され、私を呼び出してくださって、「これから入院するから。」と伝えてくださいました。またお会いできるものと思っていたのに、残念でなりません。遠友塾での尊いお働きは、じっくりクラスの生徒さんたちのコメントを読むごとに、またスタッフ皆さんの悲しみを表現する文面などを通して、どれだけ真摯に誠実にご奉仕されていたかと思いました。私は、コーヒーこぼしたことで、干場さんに導かれて参加することになった遠友塾で、少しでも干場さんの遺志をついで、生徒さんたちの学ぶ姿に励まされながら、できることを続けていきたいと思えます。

また、テニスのことでは、腰痛でしたか、ここ数年前には、あまりテニスが自由にできずに、治療院に通ったり、パーソナルトレーナーさんに施術してもらったり、ストレッチも熱心にやっけて、昨年は、偶然野幌運動公園で、練習する姿をお見かけしました。

天に召される直前まで、楡庭会、遠友塾のことを気にかけて、メールをされていたとお聞きしました。どうぞこれからは、天の御国で、体の痛みもなく、思い切り大好きなテニスを楽しんでください。本当にお疲れさまでした。

## 干場会長を偲んで

北街道楡庭会 幹事長

昭和56年度 主将

昭和57年 工学部卒 太田 正人

令和4年5月22日(日)の午後、前日に北大硬式庭球部新生歓迎テニス会があり、干場会長の代役として、現役学生に学生支援として、定額支援金と七大学遠征支援金を贈呈したことの報告をメールにて連絡しようと思っていたところに、S54年卒の深谷様から干場会長が亡くなられたという連絡があったが、本当ですか？とラインが来ました。私は昨日連絡とっているからそんなはずはないので、確認すると返しましたが、その

後すぐ、干場会長のご長男様から電話があり、早朝に亡くなられたと聞きました。あまりにも突然でショックでその日の記憶はあまりないのですが、干場会長の訃報と葬儀の日程を楡庭会会長、幹事長、役員の皆様や関係各所へメールで連絡していたことが、メールの履歴をたどったところ分かりました。

私が干場会長と初めてお会いしたのは、昭和53年、私が北大テニス部に入部して少し経ったときです。干場会長は農学部に所属していらして、テニスコートへ良く来ていただきました。そして、なんども試合をさせていただきました。干場会長は私より約10歳年上でしたので、その時はまだ20代だと思えます。皆さんの思い出にあるとおり、サーブは遅かったのですが、足は速くどんなボールも返ってきたという記憶があります。当時真偽は定かではありませんが、干場会長に勝てないとシングルのレギュラーになれないと言われていました。

私は卒業後5年あまり関東にいましたが、OB会とは全くかわからず、札幌に戻ってきてからも北大コートには新歓と東北戦の応援とコート納め以外は顔をださないで過ごしていました。2002年の100周年記念事業くらいからでしょうか？

干場会長より、北海道楡庭会の仕事を手伝ってほしいということで、北海道地区の集まりの企画・運営を手伝い始めました。北海道地区だけのイベントの対応ですので、そんなに大変な仕事ではなく、全国から札幌にこられたOBの方々とのテニスをする機会も増えて自然と北海道楡庭会の実務を担当するようになってきたところ、干場会長より、幹事長を交代してほしいという話があり、2008年に北海道地区の幹事長を交代しました。ところが、北海道地区の幹事長は全国の幹事長となることが決まっているということは交代の時点で話はなく、全国総会の前に突然言われ非常に驚きました。私ははっきり関東の幹事長が全国の幹事長をするものだと思っていたからです。それ以降干場会長の指導のもと、能勢会長、安川会長、干場会長のもとで途中、仕事や東京転勤で抜けた時期もありましたが、幹事長を務めてきました。





干場会長は常に、学生を支援することを一番に考えていて、2020年からのコロナ禍で学生が困窮しているの、緊急に支援が必要ということで、食料支援や困窮学生への支援、東北、七大学戦遠征費支援など、スピード感をもって対応していただきました。学生からは非常に感謝されています。また、100年記念のオムニコートが老朽化してきて、大規模修復作業が必要となったときに、どんなコートにしたいかは学生に決めてもらうべきだという意見でした。私は資金の問題があるので、オムニのプレーゾーンを張り替える案が一番現実的という意見だったのですが、干場会長が榊東旺の現会長と話をし、学生の希望どおりのハードコート3面が楡庭会の寄付だけで完成させる目途をつけていただきました。これはすごいことです。その後常にもコートの状況を見に行き下り、現在4年目に入りますが、非常に良いコート状態になっています。これもひとえに干場会長のおかげと思っています。

北大の学生支援課ともパイプを作り、コート脇の枝の伐採費用やコート整備費用も一部出させていただきました。これらのことは私が引きついでいく必要があり、身が引き締まる思いです。

干場会長のこれまでの北大硬式庭球部への貢献はここでは書き尽くすことができませんが、私たち残されたものは少しでも近づけるように努力していきたいと思っています。そして、干場会長が実現に力を注いでいた北海道大学硬式庭球部創部120周年記念事業を成功させたいと思っています。

今一度、干場会長とテニスをしたかったという思いが日に日に強まっており、無念で仕方ありません。いつもコートで屈伸をして足を動かしていました。最近は早いスライスサーブでエースをとられることもありました。大堀会長とのダブルスはいつも見ているうらやましく思っていました。過去を振り返ると涙が止まりません。どうぞやすらかに休みください。そしてご冥福をお祈りします。



## 干場会長追悼文

北大庭球部 現監督

平成58年度 主将

平成59年 法学部卒 佐々木 孝幸

5月22日(日曜)15:36太田幹事長から送られたメールの冒頭を目にした瞬間、「えっまさか」と思いました。前日の21日に行われた新歓テニスの朝7:03に、干場会長から「今日は天気が良さそうですね。久しぶりの新歓が、楽しい時になることを祈っています。」とのメールをいただいていたからです。ただ、昨年11月の東北戦で体調がすぐれないとして仙台に来られなかったことや血液のガンらしいと聞いていたこと、年明けになって闘病生活を続けられていたことを思い出し、ご長男からの連絡と書かれているのを見て、本当なんだと観念しました。

1993年に当時の干場庭球部監督から監督を引き継ぎましたが(転勤で離れた時期あり)、いつも学生の様子を気にされて、その都度ねぎらいのお言葉や丁寧なメールをいただきました。また、会長が酪農大学学長だった頃、私の娘が獣医の夢を抱き酪農大学のオープンキャンパスに家族で訪れ建物入り口で最初に出会った関係者が、干場学長でした。お互いすぐに分かり、そのまま建物を特別に案内してもらいました(その後、娘は酪農大テニス部に入り、6年生の時に王座で北大と対戦)。卒業してから娘のことを気にかけてくださいました。

干場会長、公私で大変お世話になりました。

もっともっと一緒にテニスをしたかったです。

札幌駅北口のおすすめのお店でまたワインも飲みたかったです。

もう何も叶いませんが、いつも気にされていた学生の活動をしっかり後押しして、良い報告を天国に届けたいと思います。

家族一同、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 干場会長を偲んで

平成20年度 主将

平成21年 工学部卒 矢内 穂高

干場会長は私の目標であり、心から尊敬する御方でした。本当に沢山のことを教わりました。

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

